

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

平成30年度 第6号
平成30年11月15日発行
< 発行・編集 >
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

同和教育部から = 「思いやり」について親子で考えてみましょう =

車椅子に乗ったAさんもみんなといっしょに……。



左の4コマ漫画は、今年度の中学校区小中教職員の研修会で活用した資料の1つです。

Bさんは「A君は車イスだからムリなくていいよ」と言っています。BさんはAさんを思いやって発言したことは明らかです。しかし、結果的にAさんは暗くしずんで満たされていないようです。思いやりが相手から元気を奪うなんて…

障害のある人の社会参加しようとする意志が善意によって阻まれる。このようなことは現実社会においても時々あると、障害のある方から聞

いたことがあります。また、善意で言っていることがわかるだけに、反論もしにくいとのこと。

どうしてこんなことに？ どうすればいい？

すべての人の人権が尊重される共生社会を築く上で、「思いやり」はとても大切です。しかし、障害のある人には無理をさせてはいけない、高齢者には席を譲るべきだという固定観念や周囲の視線を気にした世間体、思いやりをかけたという自己満足からの言動になってしまうことがあります。感じ方や考え方は人によって多様であるのに、自分のモノサシ(価値基準)だけで判断すると、せっかくの思いやりが、余計なお世話になってしまいかねません。人権を尊重する上で、相手(特に、被差別者・弱者・マイノリティ)の立場になって考えることは、とても重要です。「思いやり」も、文字どおり相手の立場に立つことが思いやりであり、そうした上で考え、表現することが求められます。

私たち大人は、親として教師として子どもたちに「相手の立場になって考えなさい」とよく言いますが、実はこれは口で言うほど簡単なことではないのです。大人が敏感に、これは真の思いやりかな、と思う場面をとらえて(例えば一緒に買い物に出かけた時やTVのドラマの一場面でもOK)親子で考えてみる機会をたくさんもつことが、子どもの人権感覚を育むことにつながります。

= 電車の中で =

親：おじいさんが来たから席を譲ろうね。
子：はい。
親：どうぞ、お座りください。
男：いいですよ。私は立っていますので。
親：遠慮なさらずに、どうぞ。
男：・・・(困った顔で腰掛ける)。

- 問
- ① あなたがBさんなら、Aさんに何と言いますか？
 - ② 電車の中では、どのように対応しますか？

親子で考えてみてください。

北諏訪小学校の取組

北諏訪小学校では、「明るく元気の出る同和教育」の推進を目指して、今年度も取り組んでいます。「東中学校区同和教育指定計画」に基づき、日々実践を積み重ねています。

夏休みには、白山会館の現地学習に行ってきました。白山会館では、今もなお続く部落差別の現実について改めて学ぶことができました。講師の先生からは、「学校で正しいことを教えてほしい」「先生方も人権感覚を養って」という話もありました。「差別に気づき、差別をゆるさない、差別をしない」子どもたちを育てるために、今後も授業改善や研修に励んでいきたいと思えます。実際の授業づくりでは、学年を超えて授業のアドバイスをし合っています。また、学習で使う資料などは蓄積し、共有しています。たくさんの研修会にも参加して、実践力を磨いています。正しい知識や歴史をきちんと学び、これまでの人々の知恵や努力を、しっかりと子どもたちに伝える授業づくりをしていきます。



白山会館現地学習

11月には、人権教育強調月間に合わせて、全校で「絆集会」を行います。誰とでも仲良くするとはどういうことなのか、全校のみんなと一緒に考え、全校が笑顔で生活できるようにしたいという子どもたちの願いがこの集会のねらいに込められています。学年を超えた活動を通して、仲間の気持ちを認め、互いに思いやる気持ちが育つことを目指します。



同和教育授業



工夫された板書

保倉小学校の取組

11月は、「ほくら人権強調月間」

～自分も人も大切にしよう～

ハートフルでいっぱい！

保倉小学校では、「一人一人を大切にし、お互いを大事にすることのできる子ども」を育てたいと考え、「ハートフルカード」で、心温まるメッセージを送り合う取組を継続しています。学級の友だちや縦割り班の友だちに「すごいね」「ありがとう」「うれしかったよ」というメッセージを書いて、掲示しています。また、文化祭等の学校行事の際に、保護者や地域の方々から子どもたちへメッセージをいただき、玄関前に掲示しています。子どもたちは、そのメッセージを読んで、みんな笑顔になります。

これからも「一人一人、大切にされている存在なんだ」ということを伝えていきます。



ハートフルボード

11月30日(金)「ほくら人権の日」

11月は、「ほくら人権月間」です。スタートの11月1日(木)は、徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会の中倉茂樹様を講師に、高学年児童と地域の人と一緒に学ぶ人権学習(講演会)を開催します。

また、11月30日(金)を「ほくら人権の日」として、全学年が人権教育の授業公開を行います。あわせて、デフ(聴覚障害者)マジシャンのミスターかわづさんによる、人権講演会とマジックショーも行われます。

これらの取組を通して「みんなが幸せに生きる」ことの意味や大切さを考える機会にしていきます。

たくさんの方の参加をお待ちしています。



有田小学校の取組

人権教育、同和教育研修部として、「差別の現実に学ぶ現地学習会」「直江津東中学校区同和教育基底計画」に基づき、年間3回以上（学期に1回）の同和教育の授業を実施しています。

学校生活で起こりうる差別問題から現代の部落問題を始め、社会生活の中で起きている差別問題について学習しています。

指導の重点

- ・相手の立場を理解し合い、誰とでも仲良く協力しようとする態度を育てる。
- ・日常生活の中にある差別を見抜き、差別を許さない態度を育てる。

同和教育の授業実践と授業公開

2学期では、直江津東中学校区基底計画に基づく授業実践を、10月23日（火）のフリー参観の日に行いました。参観日に同和教育の授業を公開することで、保護者への意識啓発を図りました。1年生は、「生きるI」の「ぼくもしたい」という教材を通して、仲間はずしをされた「ぼく」の悲しい・悔しいという気持ちに十分寄り添いました。学習の中で、「かわいそうだ」といった客観的な見方をする児童には、それだけでは差別は解消できないことをおさえながら、学習を進めました。また、ペアトークや役割演技を取り入れるなど、学習形態を工夫して行いました。そして、「あなたがこの場にいたら、何と言いますか」と問いかけることを通して、『勇気を出して「仲間はずしはだめだよ」と注意をする』『「みんなで遊ぼう」と声をかける』など自分たちで問題を解決しようとする気持ちが高まりました。今後も、人権意識を高め、差別解消に取り組む力を養うよう、子どもが差別や偏見に憤るような指導過程を工夫するなど、人権学習や同和学习の一層の授業改善を進めていきます。



学びを深めるペアトーク

春日新田小学校の取組

「だれにでも優しく、お互いに認め合い学び合う子」の育成をめざして

中規模校としてスタートした今年度の春日新田小学校は、上記のテーマに迫るために「よりよい人間関係づくり」「正しい人権感覚を育む同和教育の授業の充実」「人権感覚と指導力を高める研修の実施」等の方策を立て、取組を進めています。1学期の学級開きでは、「いじめを生まない、仲良く協力し合って生活するための学級の約束」について各学級での話し合いを行いました。また、6月5日に第1回いじめゼロスクール集会を実施し、全校で、「いじめをなくすためにはどうしたらよいのか？」について考えました。集会を通して、相手の気持ちを考える大切さを全校で確認することができました。



6月14日のフリー参観日では、全学級が人権教育、同和教育の授業を公開しました。子どもたちが差別に対してどのような学習を積み重ねているのかを、保護者の皆様に参観していただくことができました。

2学期は、11月21日から30日までを「人権強調旬間」とし、直江津東中学校区で作成した人権教育、同和教育基底計画に基づく各学年の授業実践や縦割り班遊びを計画しています。21日を「春日新田小人権の日」と位置付け、第2回いじめ見逃しゼロスクール集会を実施します。また、旬間中、高学年では講師を招いて同和教育や人権問題について学習します。今後も春日新田小の心育ての取組を家庭や地域から見ていただく機会を設定します。

直江津東中学校の取組

- 自己肯定感をもつと同時に、互いの人権を尊重できる生徒。
- 差別問題の歴史と現状を正しく理解し、差別を許さない心を持ち、実践的態度をとれる生徒。

本校では、人権教育、同和教育の目標として上記の2つを掲げ、日々の実践に取り組んでいます。今年度は特に授業実践と生徒会の取組に力を入れています。

1年生の実践では、「差別を許さない心情」を育てるために、被差別部落の人々への偏見が差別を広げていくことを学びました。授業の感想の中には、「生まれた場所によって差別されるのはおかしい」「差別を受けながらもがんばっている人もいてすごいなあと感じた」など、授業を通して差別を許さない心が高まっています。

生徒会の取組として、「いじめ見逃しゼロ強調月間」を11月に行います。例年、多くの委員会が生徒の「いじめを許さない心」「他の人へ思いやりをもって接する心」などを高める取り組みを行います。生活委員会や環境委員会の予定では、校舎中に“温かい言葉”や“元気が出る言葉”の掲示を考えています。



1学期に行った道徳の授業の様子です

第1回 有田小学校運動会

10月6日（土）台風の接近や雨天が心配されましたが、10月にしては暑すぎるくらいの陽気の中、計画通り開催することができました。開校して初めての運動会に、子どもたちは緊張した様子でした。開会式が始まり、応援団長の掛け声で全校が駆け足で集合すると、その壮観さに会場からざわめきが起きました。その後、全校児童のやる気と緊張感がみなぎる中で、競技や応援が展開されました。多くの皆様から、子どもたちへの応援や競技への参加をいただきました。

昼食休憩は“ご家族と一緒に”ということで、校舎内を開放しました。お弁当を囲んで仲良く昼食をとっている姿に、有田小の目指す「あたたかく」を感じました。

子どもたちの満足感が、その日焼けと笑顔から伝わってきました。運動会の競技や応援は、勝敗がつきものです。悔しい思いをした子、勝った喜びを嬉しそうに話してくれた子、様々でした。そういった「楽しかった」「頑張った」「やったー」といった熱い思いが、子どもたちのたくましさを育てるのだと思いました。

運動会は、地域保護者の皆様の多大な協力と理解のもと、大成功に終わりました。

子どもたちの笑顔と成長のため、これからも変わらぬご支援をお願いいたします。

